

未来への取り組み
~23区の未来図~

第22回 練馬区

「誰もが安心して心豊かに暮らせるまち練馬」
を未来の世代へ

練馬区は、都心の近くに立地しながら、武蔵野の面影を伝える屋敷林や住宅街の中に広がる農地、四季折々の花咲き誇る公園など、多様なみどりが点在する住宅都市です。今後は、実現に向けて大きく前進した大江戸線の延伸を基軸として、「みどり」や「文化」など、区民生活をより豊かにする施策を推進していきます。

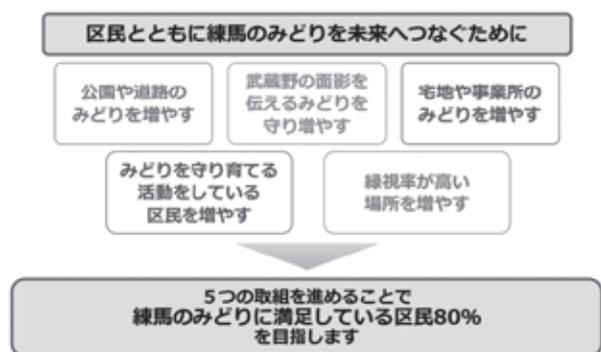
未来の世代へ「練馬区のみどり」

「練馬のみどり」に満足している
区民80%を目指す

練馬区では、練馬のみどりを未来へつなぐために、「練馬区みどりの総合計画」（以下、総合計画）を策定しています。公園や樹林地の整備、都市農地の保全、区民協働によるみどりの活動など、区民とともに豊かな練馬のみどりを守り育てる取組を続けていきます。

練馬のみどりに満足している区民の割合80%を目指して、魅力あるみどりの保全と創出に向け、取組をさらに充実させていきます。

30年後（令和30年度）の目標



「練馬区みどりの総合計画（令和5年度改定）」より



落ち葉クラフト



モルック大会

区民団体が実施！
「ねりまの森こどもフェスタ」

練馬区では、総合計画に基づく取組の1つとして、みどりを守り育てる機会を高め、区民との協働を更に進めています。イベントの開催などにより、みどりの魅力を伝える情報発信を強化しています。

令和6年度から開催している「ねり

まの森こどもフェスタ」（以下、こどもフェスタ）では、区内の憩いの森や

緑地を区と協働で管理している区民団体が、それぞれの場所の特性を活かしたイベントを行っています。

落ち葉遊びや腐葉土作り体験、森の素材を活用したワークショップなど、子ども向けの企画が盛りだくさん。こ



草木染めワークショップ



落ち葉遊び

どもフェスタをきっかけに、会場である憩いの森や緑地に初めて来たという方も多く、来場者にとっても区民団体にとっても好評のイベントとなっています。

初開催！「みどり」の魅力伝える 総合イベント「ねりまみどりフェスタ」

今年（2026）3月22日には、「ねりまみどりフェスタ」を、都立光が丘公園で初めて開催します。区内で毎年開催している練馬こぶしハーフマラソンと同日開催で、みどりを守り育てる区民団体の取組紹介のほか、クラフト工作や園芸ワークショップ、生きもの観察会など、みどりや生きものに直接ふれられるさまざまなコンテンツを用意しています。

出展団体は、こどもフェスタにも参加している区民団体のほか、練馬環境造園協会、練馬区植栽管理相談協力店など17団体を予定。さまざまな遊びや体験などを通じて、子どもも大人も一緒に楽しみながら、みどりの魅力を感じられるイベントです。



みどり×文化 「みどりの風 練馬薪能」

「みどりの風 練馬薪能」は、練馬区の豊かなみどりと伝統文化を連携させた、区の魅力をさらに高めるイベントです。毎年9月に開催し、昨年で9回目を迎えました。練馬区名誉区民であり、人間国宝でもある狂言師の野村万作氏・萬斎氏親子をはじめ、重要無形文化財総合指定保持者の梅若紀長氏・

その息子の志長氏のほか、練馬区にゆかりのある能楽師が多数出演。深い緑が広がる石神井の森を背景にした風趣あふれる公演が人気で、抽選チケット購入による観覧のほか、だれでも無料



狂言「樋の酒」

で楽しめる大型ビジョンによる生中継も行っています。

万作氏が練馬区に住まいを構えたことをきっかけに練馬文化センターのこけら落とし公演が上演され、以後定期的に狂言公演が開催されたこと、万作氏が平成23（2011）年に文化センター名誉館長に就任し、文化センター事業として狂言のワークショップを実施している等のつながりから、薪能の開催が実現しました。

薪能の関連事業として、梅若研能会能楽師の方々に講師に招いた「能楽体験ワークショップ」を年3回（7月～9月）開催しています。



能「石橋 大獅子」

未来の世代へ「練馬区の都市農業」

身近な都市農地を 守り育てる取組

練馬区は、区民生活と融合した生き
た農業が営まれています。23区の中で
農地が一番多く、23区にある農地の約
4割が練馬区にあります。都市に農地
を残すことは容易ではありませんが、
農業者の努力と区民の理解のもと、農
地が受け継がれてきました。

とはいえ農業者の高齢化や後継者不
足等により、農地面積は年々減少傾向
にあります。練馬区ではこうした課題
に対応するため、様々な施策に取り組
んでいます。その一例として、都市農地
貸借円滑化法（正式名：都市農地の貸
借の円滑化に関する法律）による貸借
制度を活用し、農地を貸したい方と借
りたい方をマッチングして貸借に結びつ
ける取組を行っています。令和6年度
から実施している農業者全戸訪問事業
（3か年かけて区内全農業者を訪問し
営農状況を把握する取組）などを活用
して貸借の意向を把握し、これまでに
貸借を成立させた件数は、23区内で最
も多い30件。あわせて、新規就農者を

育成する研修機関

（東京農業アカデ
ミー）との連携に

よる新たな担い手

の確保などにも努

めています。令和

7年度は、アカデ

ミー修了生と農業

者との貸借のマッ

チングを行い、23

区初の区内就農につ

なげることができま

した。練馬区では

引き続き、様々な

施策を通じ都市農

地の保全に向けて

取り組んでいきます。



▶採れたての農産物を
楽しめる直売所



練馬区の畑の風景



◀収穫体験の様子

農園主の指導で作物を作る 練馬区発祥の農業体験農園

練馬区では、区民が農業に親しむ取
組を積極的に行っています。区内に現
在17園ある農業体験農園（以下、体験
農園）は、平成8年度から始まった練
馬区発祥の畑の学校で、農園主が自ら
の畑で耕作の指導を行います。利用者
は農園主の指導を受けながら、種まき
や苗の植付けから収穫まで、一連の農
作業を体験できます。決められた区画

で様々な品目の作物を作り、ご近所に
配るほどたくさんの方が収穫できま
す。体験農園でノウハウを学び、その
後、自ら耕作ができる区民農園を利用
して耕作を実践する方もいます。
農業体験農園は、「利用者」と「農業者」
「利用者」と「利用者」の交流の輪が広
がり、コミュニティの形成につながっ
ています。



農業体験農園利用者の皆さん



当日の会場の様子



ワークショップを体験した来場者

全国から32自治体に参加！ 「全国都市農業フェスティバル2025」

「全国都市農業フェスティバル」は、都市農業の魅力や可能性を全国の自治体と一体となって発信し、都市農業の理解促進と更なる発展につなげていくために開催しています。

令和5（2023）年に初開催し、令和7（2025）年11月には2回目となる「全国都市農業フェスティバル2025」を開催しました。

フェスティバル2025は、都市農業に積極的に取り組む全国32の自治体

が参加し、「買う」「食べる」「体験する」「話す・学ぶ」をテーマに、練馬区や参加自治体の農産物・特産物の販売に加え、キッチンカーではそれらを使用したメニューを提供しました。

また、農業者を講師としたワークショップや農業者とゲストによるトークライブを行い、開催2日間合わせて約7万5000人が来場し、大盛況のイベントとなりました。引き続き、練馬区が全国の先頭に立って、都市生活に新たな豊かさをもたらす都市農業の魅力と可能性を全国に発信し、都市農業を盛り上げていきます。

もっと前に！ もっと豊かに！

もっともっと発展する練馬区！

大江戸線の延伸

「大江戸線延伸—沿線まちづくりデザイン—」[イメージ]



人口が75万人を超え、今後も増加が見込まれる練馬区は今、更なる発展の時を迎えています。

大江戸線の延伸は、都内はもとより東京圏全体が更に発展するために欠かせない事業です。練馬区においても鉄道空白地域を改善し、多くの事業効果をもたらすものであり、必ず実現しなければならない事業です。

東京都は、大江戸線を練馬区北西部まで4km延伸する計画の事業化に向けた検討結果を公表しました。2040年頃の開業を想定し、練馬区の財政負担など一定の条件のもとで、課題であった収支採算性が確保できる見込みとしており、実現に向けて大きく前進しました。

延伸の実現に向け、練馬区は地元自治体としての役割を果たすため、大江戸線延伸推進基金の積み増しや、延伸後のまちの姿を示す「大江戸線延伸—沿線まちづくりデザイン—」の策定を進めています。

今後は、実現に向けて大きく前進した大江戸線延伸を基軸として、福祉医療サービスを更に充実し、文化・スポーツ・みどりなど、区民生活をより豊かにする施策の実現に取り組んでいきます。これによって、「子どもから高齢者まで、誰もが安心して心豊かに暮らせるまち」として、練馬区の可能性を花開かせていきます。